



〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862  
TEL:099 - 294 - 2311  
FAX:099 - 294 - 2309  
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/

かごしま教育ホットライン24  
0120-783-574 (フリーダイヤル)  
099-294-2200 (直通)  
0570-0-78310 (全国統一ダイヤル)

# 大原台

## 平成27年度 調査研究発表会 (報告)

<全体研究主題>

生きる力を豊かに育てる学校教育の創造 平成28年1月29日(金)開催



390人の参加をいただき  
ありがとうございました

**全体会** (9:30~12:00) 二つの研究発表と調査報告を行いました。

### 研究発表 I (情報教育研修課) 情報活用能力の育成に関する研究 II —言語活動の充実に資するICT活用の在り方—

<発表概要> 児童生徒の情報活用能力の育成について発表しました。まとめや発表の場面で、言語活動をより充実させるために、ICTをツールの一つとして意図的・計画的に児童生徒に活用させることが大切です。



<参加者から>  
ICTについては「まとめる」、「いかす」場面での具体的な活用例を知ることができ、今後も更に活用しようと思いました。(中学校教諭)

- ・ 教科指導においてICTを活用させながら、併せて情報活用能力を育成しており、二つの目的を兼ねている。
- ・ ICTとはコミュニケーションに意味があり、単なるITとの違いはここにある。このことが言語活動の充実につながる。
- ・ 授業において、教師がICTを使うことはとても意義がある。なぜなら、活用のモデルとなるからである。
- ・ 学校では、まずはあるもの(ICT)を使ってみるのが大事であり、それを使いやすい手立て(マニュアルの作成等)が必要である。



鹿児島大学  
園屋高志 名誉教授

### 研究発表 II (特別支援教育研修課) 特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究 II —知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫—

<発表概要> 知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫について発表しました。PDCAサイクルに基づく、一貫性・系統性のある指導が大切です。



<参加者から>  
一人一人をしっかりと見て、それぞれに合った指導の仕方を考える。どの校種でも大切なことだと改めて思いました。(高等学校教諭)

- ・ 子供が何がどこまでできるのか、などの的確な実態把握が大切である。
- ・ 個人の力を助けるのが集団である。この集団の力を大切にしたい。
- ・ 障害者差別解消法が施行され、授業に平等な立場で参加できるようにすることが大事となる(合理的配慮)。
- ・ 子供のつまづきを細かく客観的に捉えるには、教師集団を育てることが大切であり、そのことが次につながる。



鹿児島大学教育学部  
片岡美華 准教授

### 調査報告(教職研修課) 教職員のニーズを踏まえた効果的・効率的な研修の構築に関する研究 III

<報告概要> 悉皆研修について教育の動向や本県の課題、教職員のニーズ等を踏まえ、充実・改善したことを報告しました。経験年次別研修を点から線へつなぐことで、「学び続ける教師」としての意識の継続化を図ることが大切です。



<参加者から>  
「学び続ける教師でありたい」と書かれたステップアップ研修の先生の感想が胸に刺さりました。自分、学校はどうかと考えることでした。(小学校教諭)





## 第1~5分科会研究主題

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究  
—主体的・協動的に学ぶ学習の工夫を通して—

### 第1分科会 国語科



- 小・中・高の系統が分かり充実していた。(小学校教諭)
- 校種ごとの国語の能力, 課題について考えることができた。(高等学校教諭)

### 第2分科会 社会・地理歴史・公民科



- 資料の精選, 問いの精選の大切さを再認識できた。(小学校教諭)
- 特別支援学校での授業でも実践してみようと思った。(特別支援学校教諭)

### 第3分科会 算数・数学科



- 「表現モデル作成シート」など参考になり, 明日からの授業で使いたい。(小学校教諭)
- 理論の面で, 大変勉強になった。(中学校教諭)

### 第4分科会 理科



- 特に, 知識構成型ジグソー法に興味をもった。(中学校教諭)
- センターの研究と一貫性のあるすばらしい実践だった。(指導主事)

### 第5分科会 外国語活動, 外国語科



- 課題解決のための活動を考えるきっかけとなった。(中学校教諭)
- 今後の授業の進め方を具体的にイメージしやすくなった。(高等学校教諭)

### 第6分科会 情報教育

情報活用能力の育成に関する研究Ⅱ  
—言語活動の充実に資するICT活用の在り方—



- One Noteを使えてよかった。使い方をもっと知りたい。(小学校教諭)
- 目標がぶれないように, 「まずは実践だ。」と思った。(中学校教諭)

### 第7分科会 特別支援教育

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ  
—知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫—



- 授業づくりに大切にしていきたいことが, よりよく見えるようになった。(特別支援学校教諭)
- 具体的な実践や課題を知ることができよかった。(学生)

### 第8分科会 教育相談

児童生徒の豊かな人間関係づくりに関する研究  
—SNSの利用による友人関係への影響に着目して—



- SNSに関する新たな視点を得ることができた。(中学校教諭)
- 豊かな人間関係の構築を目指していく重要性を感じた。(高等学校教諭)

他の分科会資料が欲しいなあ...

発表会資料を活用したいなあ...

## センターWebページに調査研究発表会資料を掲載!



▶ 調査研究発表会資料

こちらをクリックしてください。  
平成26, 27年度の発表会資料を掲載しています。  
是非, 御活用ください。



当センターWebサイトのトップページ



平成27年度

# 長期研修者研究発表会

平成28年2月25日(木)開催

10人の長期研修者が当センターで一年間学んだことを、具体的に分かりやすく発表しました。これまでの感想や今後への思い、長期研修のよさなどについて、長期研修者の皆さんからの生の声をお届けします。

長期研修の研究抄録と研究報告書は、平成28年4月中旬に、当センターのWebページに掲載する予定です。

**学**びの一步を確実に。研究の進め方、文章書法、そして何より、鹿児島県を担う教師としての在り方について勉強することができました。センターでの学びを確実に還元への二歩とつながりについてと思います。

長島町立鷹巣小学校 永田 大輔 教諭  
「飽くなき向上心を抱く児童の育成を目指したキャリア教育の創造  
—第6学年における各教科等を有機的に関連付けた授業実践を通して—」



**還**します。そして、発信します。この1年間の研修を通して、児童によるICT活用をはじめとして、情報教育について基礎から学び直すことができて、学んだことを留め置くのではなく、少しでも広げていけるよう、努力いたします。

鹿児島市立本名小学校 白尾 麻衣 教諭  
「児童のICT活用による情報活用の実践力の育成  
—自ら考え、発信できる力を育む学習指導の工夫を通して—」



**び**景広がる大原の地で、研究の楽しさと難しさを学ぶことができました。基礎研修や新員講話、朝の会のスピーチなどから、ものの見方や考え方が広がりました。

日置市立伊集院小学校 井上 博和 教諭  
「根拠を明確にして推論できる児童を育成する理科学習指導の在り方  
—互いの考えを生かし、高め合う活動を重視した授業を通して—」



**元**気ももらい、学び方も教えていただけました。閲覧室に行くと、5冊もの本たちが出迎えてくれます。不易を学び、流行を知ることが出来ます。こんなにも学ぶ環境の整った場所が他にあるでしょうか。求めていた答えがここにはあります。

瀬戸内町立古仁屋中学校 前平 勝 教諭  
「数学において『活用する力』を育成するための学習指導の在り方  
—授業展開の工夫を通して—」



**の**新しい教師としての在り方をこの一年間学ばせていただきました。長期研修で今までとは違う新たな自分と出会いができました。「教えることは学ぶこと」。これからもここで出会えた縁を大切に、学び続ける教師でありたいと思います。

鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校 染川 加奈子 教諭  
「知的障害のある生徒のコミュニケーション能力を育む外国語科の指導  
—高等特別支援学校版CAN-DOリストの開発、活用を通して—」



**の**びしろが自分にもまだあるのかもしれない。そう思うことができるようになった一年間で自分の研究だけではなく、朝の会で毎日うかがった先生方のお話や、様々な研修を通して、自分の世界が広がりました。教師として、更に成長するためのパワーをもらいました。

伊佐市立大口東小学校 香川 由美子 教諭  
「自ら英語でコミュニケーションを図ろうとする児童の育成  
—小学校英語科の導入を見据えた、基本的な表現の定着に焦点を当てた学習指導の工夫—」



**一**年間の学びで得たものは、これからの自分を形づくる糧となるものでした。「進んで自分の考えを伝え合う力」を高める授業づくりに力加はるとともに、生涯学び続けることで得たつながりを受に広げていきたいと思っております。

薩摩川内市立川内北中学校 池田 貴裕 教諭  
「進んで自分の考えを伝え合う力を高める国語科学習指導の在り方  
—思考の活性化を導くアクティブな交流を通して—」



**二**度とない充実した日々を過ごすことができました。所内での研修や担当研究主事の御指導により、教師として必要な力を授けていただきました。これからの教師生活が全く違うものになるだろうと確信しています。一年間、本当にありがとうございました。

志布志市立松山中学校 日高 佳子 教諭  
「生徒の主体的な学びを引き出す国語科学習指導の在り方  
—社会科や理科との連携を図った説明的文章における単元構想と言語活動の工夫—」



**歩**んだ先に見えたのは、理想とする授業には簡単には近付けないということです。それでも、生徒に漢文好きになってもらえるよう、4月からは学んだことを更に発展させて、工夫しながら進んでいきたいと思っております。

鹿児島県立開陽高等学校 上田 美和 教諭  
「漢文を読む能力を養い、関心を深めることができる学習指導の在り方  
—漢文における広がりのある学習指導を通して—」



**歩**んだ道の先には、子供たちの笑顔が待っていました。研究の楽しさと奥の深さを心の底から実感することができました。長期研修を通して、10人の仲間と「新しい自分発見」ができたことは、私にとって一生の宝物です。

湧水町立吉松小学校 坂下 泰洋 教諭  
「児童が他者とのよりよい関わりの中で自己への問い掛けを深める道徳の時間の在り方  
—『相互理解、寛容』の指導を通して—」





# 平成27年度 高等学校情報教育継続研修 発表会・修了式

平成28年2月5日(金)開催

年間20回の研修で学んだことを発表しました

コース	所属	氏名	発表テーマ
情報システム	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	菊浦 雅明	電光表示をPIC制御で行う
	鹿児島県立鹿児島水産高等学校	福留 真吾	発振器(モールス信号)の製作
	鹿児島県立川内商工高等学校	古賀 泰治	ステッピングモータの制御(PIC制御)
	鹿児島県立加治木工業高等学校	堂後 浩貴	押しボタン式交通信号機(PIC制御)
	鹿児島県立隼人工業高等学校	堀之内 修	カウントダウン・タイマーの製作
	鹿児島県立鹿屋工業高等学校	末永 篤史	LED電飾ミニツリーの製作(PIC制御)
情報コンテンツ	鹿児島県立明桜館高等学校	大漣 成知	資格取得の個票印刷(VBA)
	鹿児島県立串良商業高等学校	石谷 美咲	検定試験対策のための問題作成(VBA)
	鹿児島商業高等学校	富田 潤	ゲーム作成から学ぶExcelVBAプログラミング
	出水市立出水商業高等学校	米倉 盛貴	成績処理(VBA)
	霧島市立国分中央高等学校	大城 知彦	かごしま検定対策過去問集(VBA)



研修者の感想です。  
今後に向けての熱い  
思いが感じられます。

課題研究で製作したものを改良して生徒の指導に役立てたいです。学ぶ姿勢を生徒に見せられるようにありたいと強く感じました。また、校内LANや情報に関わる校務にも挑戦し、この経験を生かしたいです。

教科を問わず、多くの先生方にこの研修をもっと受講して欲しいと思います。授業へのICTの導入は大きな課題で、周りの先生方に積極的に受講を勧めていきたいです。

継続研修の研修報告書は、3月中旬に当センターWebページに掲載する予定です。

## 児童生徒の学びの姿から、次の実践に！ 研究提携校公開(報告)

### 鹿児島県立出水養護学校

#### 研究主題

つながりが感じられる授業づくり  
—子どもが「やりたい」、「やればできる」、  
「やりがい」を感じる授業実践を通して—

平成28年2月10日(水)



楽器遊びを通して、表現の楽しさを味わっていた小学部音楽科の授業

最後に、ここ十数年英語の授業をしていなかったが、久しぶりに授業法を考える時間があった。「主体的・協働的な学び」、「共感的な関係性の中で」といったことは一十年近く前にも話題になっていたような気がする。指導法は年を経る中で表に出て脚光を浴びたり、裏に隠れたりするものものようである。要は本当に力のつく授業、児童生徒の将来に役立つ授業でなければならぬ。脈絡のない非常に私的な文章を書かせていただいたが、センターの皆様に対しては感謝の念に堪えない。

「この一年を振り返って」  
次長兼研修部長 山元 康弘

教員としての最後の年を当センターで迎えることとなった。教員は教科指導力と担任としての学級経営力が大事と考えてきたので、学校を離れ生徒の声が聞けず、生徒に直接話し掛ける機会がなかったのは残念ではあったが、前向きに考えようと多くのいい経験もさせていただいたと思う。

まず、高い能力と意欲をもった所員たちとの出会である。小・中学校や特別支援学校の職員と交流することはあまりなかったため、センターで校種の異なる先生方の考え方・教育への思いを知ることが、(ここでは具体的には述べないが)多くのことを教えていただいた。

さらに、所員と学校訪問に行くという楽しい機会も与えられた。研究提携校研究公開、フレッシュ研修巡回訪問等で全ての校種の授業を参観し授業研究にも参加した。小学校では給食もいただいた。学校を訪問すると、その学校のもつ雰囲気を感じることがができる。県では小規模校が増える中、管理職はじめ先生方が一生懸命に各学校の活性化策を模索されている様子がうかがえた。